

教育研究業績書

2024年10月22日

所属： 景観建築学科

資格： 講師

氏名： 田中 佑奈

研究分野	研究内容のキーワード
都市計画学、景観デザイン	伝統的町並み、ファサード、帰納論理プログラミング、遮蔽緑
学位	最終学歴
博士（建築学）， 修士（建築学）， 学士（建築学）	武庫川女子大学大学院 生活環境学研究所 建築学専攻 博士後期課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. レンダリングソフトを活用したCGプレゼンテーション制作	2022年10月～現在	景観建築学科2年生「景観映像情報演習Ⅱ」、3年生「景観映像情報演習Ⅲ・Ⅳ」において、より魅力的なCGプレゼンテーションに仕上げる事が可能なレンダリングソフトを活用した、CGパースやウォークスルー動画制作に取り組む。CADソフトとのリアルタイムに連携させることで、単なる最終プレゼンテーションのためのツールとして用いるのではなく、スタディ段階から建築のボリューム構成や地形のアンジュレーションなどを空間的にイメージしながら、設計案の検討に活かすことを目的としている。
2. 地図情報データによる現況地形モデルを用いた設計案のモデリング指導	2022年9月～現在	景観建築学科2年生「景観映像情報演習Ⅱ」、3年生「景観建築設計演習Ⅲ・Ⅳ」において、地図情報データによる現況の地形モデルの作成方法や、斜面地上の設計案のモデリング方法を指導している。より具体的かつ実際の風景をイメージしながら建築とランドスケープの設計に取り組む、最終プレゼンテーションのCGパースや動画制作に活用する。
3. ウォークスルー動画を用いたプレゼンテーション	2021年11月～現在	景観建築学科2年生「景観映像情報演習Ⅱ」、3年生「景観映像情報演習Ⅲ・Ⅳ」において、各自の設計案のモデリングをもとにウォークスルー動画の制作指導を行う。各自が制作した動画を用いて最終プレゼンテーションに活用する。
4. 設計初期段階におけるGISを活用した敷地周辺調査の実践	2021年9月～現在	景観建築学科2年生「景観映像情報演習Ⅱ」において、GISを活用した設計初期段階における敷地周辺調査を行うことにより、各自が調査結果をスライドにまとめ、設計提案に活かせるようにしている。学生が作成したスライドに対するフィードバックを行うことにより、単なるGIS操作方法の習得のみならず、敷地周辺環境の理解やプレゼンテーション表現の向上を促す授業づくりに努めている。
5. 景観建築学科ホームページ上での授業内容報告と公開	2021年	設計演習やFWの授業内容を学科HPに掲載・公開している。
6. 植栽計画を具体的に表現するためのCGパース制作指導	2020年10月～現在	景観建築学科1年生「設計基礎演習」、学部2年生「景観建築設計演習Ⅱ」において、CGパース指導を担当している。建築およびランドスケープ計画の両方をCGパースに表現するために、各学生が作成する植栽リストに対応する樹木や草花の添景画像を入手し、植栽計画を具体的に表現できる環境づくりに努めている。
7. 景観建築学科1年 前期「景観映像情報基礎」図学演習問題の個別指導と解説の作成	2020年4月～現在	図学の演習で毎回実施する演習問題の添削を行い、学年全員に対して個別指導を実施している。さらに、理解が不十分であった問題の解説スライド(考え方や作図手順)を作成し、Classroomへ提示した。学生それぞれが随時復習することができ、好評であった。
8. 景観建築学科1年 前期「景観映像情報基礎」Autocad演習の実施	2020年4月～現在	Autocad関連のマニュアルを作成し、平面図の作成および3Dパース作成の演習を実施した。
9. 建築設計実務における設計プロジェクトへの参画	2019年4月～2020年3月	大学院建築学専攻の修士課程では、学生が武庫川女子大学建築・都市デザインスタジオ（一級建築士事務所）を拠点として学内外のプロジェクトに参画し、実務訓練を行っている。

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
<p>10. 作品展における学生による自主的運営の指導</p> <p>11. 建築学科2年生前期・後期「CAD・CG応用演習Ⅱ」におけるCGモデリングのフィードバック</p> <p>12. 2017年度 建築学科 イタリア海外研修 2班</p>	<p>2019年～現在</p> <p>2019年</p> <p>2017年8月26日～2017年9月6日</p>	<p>2019年より景観建築学科新校舎の設計プロジェクトに参加し、演習中に学生が制作するCGパースや模型の指導を中心に行い、施主や専門家へのプレゼンテーションを行った。</p> <p>学生主体として運営する建築学部の作品展の指導および助言を行っている。学生の主体性を尊重しつつ、企画力や積極性の向上を図る。また、ポスターやパンフレット案の指導を行い、ビジュアルの表現方法やレイアウトの基礎について学ぶ機会としている。作品展出展に向けて、各学生の手直しを促すことで作品の完成度を高め、将来的に就職活動のポートフォリオ制作に活かせるものとする。</p> <p>CAD・CG応用演習において、VecterworksやPhotoshop、Illustratorの操作について、学生から質問を受けた内容や、毎回の授業で提出を要求する図面やCGパースなどから、理解が不十分であると考えられる箇所についてまとめ、次回の授業で補助資料を配布することにより、学生の理解度を高めるよう工夫した。</p> <p>海外研修Ⅰの授業として、建築学科2年生36名が参加した14日間のイタリア（8都市）における研修の企画および引率補助を担当した。特に、岡崎教授主導の下、主担当で研修先の検討を行い、旅行会社との調整も行った。そのほか研修における計画書の作成、現地での実測調査の補助、研修資料を用いた補足説明、研修時の写真撮影などを行った。</p>
2 作成した教科書、教材		
<p>1. 景観建築学科2年 前期「景観映像情報演習Ⅰ」GISおよびCAD関連の資料作成</p> <p>2. 景観建築学科1年 後期「設計基礎演習」課題1：東屋と花と樹木の小庭園 スタディ図面見本</p> <p>3. 景観建築学科3年 後期「景観建築設計演習Ⅳ」課題2：人にやさしい海岸と海に面した街並み CAD操作マニュアルの作成</p> <p>4. 景観建築学科3年 後期「景観建築設計演習Ⅳ」課題1：シンボルのある街路・街並み・公園 GISおよびCAD操作マニュアルの作成</p> <p>5. 景観建築学科3年 前期「景観建築設計演習Ⅲ」課題2：池と共にある豊かな生活 GISおよびCAD操作マニュアルの作成</p> <p>6. 景観建築学科3年 前期「景観建築設計演習Ⅲ」課題1：瀬戸内の風景と共にある彫刻のための庭園美術館 CAD操作マニュアルの作成</p> <p>7. 景観建築学科2年 後期「景観映像情報演習Ⅱ」GISおよびCAD関連の教材作成</p> <p>8. 景観建築学科1年 後期「設計基礎演習」課題1：東屋と花と樹木の小庭園 陰影作図練習用の問題作成</p>	<p>2024年6月～現在</p> <p>2023年9月～11月</p> <p>2022年11月～現在</p> <p>2022年9月～現在</p> <p>2022年6月～現在</p> <p>2022年4月～現在</p> <p>2021年9月～現在</p> <p>2021年9月</p>	<p>景観建築学科2年 前期「景観建築設計演習Ⅰ」課題2と並行して開講する演習として、GISによる計画敷地の周辺調査(植生調査、可視領域など)の操作方法の解説資料および小ホテルの3Dモデリングの見本を作成。</p> <p>スタディ模型をもとに、図面を描くための見本を作成し、図面作成の基礎として必要な情報を提示した。</p> <p>国土地理院の敷地図データを取り込み、CAD (Vecterworks2021)で計画敷地周辺の現況モデルを作成する方法や、各自の計画案のCGパースと航空写真を合成する方法などに関する操作マニュアルを作成。</p> <p>GISによる人口、公共施設の分布等のデータを活用し、敷地周辺環境を把握するための操作マニュアル等を作成。また、広域の計画案をCAD (Vecterworks2021)でモデリングするための、地形モデルの活用方法およびTwinmotionによるウォークスルーの動画制作に関する操作マニュアルを作成。</p> <p>GISによる土地利用や人口、公共施設の分布等のデータを活用し、敷地周辺環境を把握するための操作マニュアル等を作成。また、広域の計画案をCAD (Vecterworks2021)でモデリングするための操作マニュアル等を作成。</p> <p>CAD (Vecterworks2021)を用い、基盤地図情報の数値標高データを用いた地形モデルの作成方法および複雑な曲面のモデリング方法に関する資料を作成。</p> <p>「景観建築設計演習Ⅱ」と並行して開講する情報演習の主担当として、GISの操作マニュアルおよび配布データ、作業の流れを視覚的に把握するためのスライドの作成、CAD (Vecterworks 2021)の操作マニュアルおよびモデリング制作用データの作成を行っている。さらに授業後に質問を受けた内容については、Q&Aとしてスライドを作成するなど、操作方法について理解を深めるための補助資料を随時作成している。</p> <p>平面の構成にもとづき設計する東屋の陰影を作図するために、壁や庇、階段などの例を用いて作図練習用の</p>

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
9. 景観建築学科2年 前期「建築計画」バリアフリー関連	2021年6月～現在	問題を作成した。作図を通じて、地面や壁にできる影の形の違いなどについて理解を深められるようにした。
10. 景観建築学科2年 前期「建築計画」視覚と建築空間	2021年5月～現在	バリアフリー関連についての講義スライド、毎回の小テスト、定期試験問題を作成。 視覚と建築空間関連（視覚のしくみ、錯視、遮蔽縁）のスライドおよび小テストを作成した。教員自身が行った研究に関する動画を用いて事例を紹介し、具体的に歩行に伴う空間の見え方の変化について解説している。
11. 景観建築学科1年 前期「景観映像情報基礎」情報関連の教材作成	2021年4月～現在	映像情報を取り扱うための基礎的な知識として、コンピュータの基本操作、情報社会における倫理に関するスライドおよび小テストを作成。文書やプレゼンテーション資料の作成、画像編集などのソフトウェア（Word・Excel・Powerpoint・Photoshop・Illustrator）の操作方法のレジュメおよび解説スライドの作成。
12. 景観建築学科1年 後期「設計基礎演習」課題2：仏教寺院と借景・眺望の庭 CAD操作マニュアルの作成	2020年11月～現在	CAD(Vecterworks2015)による木造建築の方丈と借景庭園のモデリング方法、Photoshopによる画像合成などの操作マニュアル、見本となるCGパースを作成した。
13. 景観建築学科1年 後期「設計基礎演習」課題2：仏教寺院と借景・眺望の庭 見本模型の制作	2020年11月～現在	本課題で重要な借景庭園について理解を深めるために、事例となる大仙院の模型を用いて内部からの眺望を体験的に確認できるよう、各学生がそれぞれ制作する。その模型の見本例や、木造の軸組模型の見本を制作することで、学生が完成像をイメージできるようにした。
14. 景観建築学科1年 後期「設計基礎演習」課題1：東屋と花と樹木の小庭園 CAD操作マニュアルの作成	2020年10月～現在	CAD(Vecterworks2015)を用いた東屋とその周辺の小庭園の計画案のモデリングや、Photoshopによる画像合成などの操作マニュアルを作成。また、見本となるCGパースを作成し、最終成果がイメージできるようにした。
15. 景観建築学科1年 前期「景観映像情報基礎」Autocad関連の教材作成	2020年8月～現在	Autocadの2D（平面図）および3Dパースの作成に関する基本的な操作方法のマニュアルを作成した。
16. 景観建築学科1年 前期「景観映像情報基礎」図学演習問題の解説およびまとめテストの問題作成	2020年5月～現在	図学演習問題の解説や補助資料の作成、まとめテストの問題を作成した。また、2022年度よりテキストを例に用いた作図練習用図面を配布し、演習問題に取り掛かる前段階において、作図手順を理解する機会を設けている。
17. 建築学科2年生前期・後期「CAD・CG応用演習Ⅱ」CGモデリング関連マニュアルの更新	2019年	Vecterwoeks2019によるモデリング操作において、旧バージョンの操作マニュアルを更新した。その他、学生からの質問へのフィードバック資料を作成した。
18. イタリア海外研修における研修資料の作成	2017年9月	海外研修Ⅰの授業として、岡崎教授主導の下、主担当で研修資料を作成した。研修先の地図を作成することで、見学先の位置関係や移動時間などを各自がビジュアル的に把握できるようにした。その他、歴史的建築物のデザイン（寸法体系やディテールなど）の理解を深めるために、カナルグランデ沿い立面図に各建築物の解説を付けた資料や、研修先の図面集を作成し、事前研修のレポート課題や研修先での解説に活用した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 景観建築学科5期生の担任業務	2024年4月～現在	授業外の学生支援全般を実施。ガイダンス、個別面談、初期演習関連授業（丹嶺研修、その他イベント参加）、学生への諸連絡、学期末の成績資料送付など。
2. 建築学部・建築学研究科 作品展指導	2021年10月～現在	建築学部および建築学研究科の学生有志で運営する作品展において、学生が作成するポスターのビジュアル、HPのデザイン、パンフレットデザインなどの指導を行っている。また、2022年度から現地での出展に向けて、展示会場のレイアウトなどについても指導を行っ

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
3. 建築学科・建築学専攻 作品展指導	2019年4月1日～2020年3月	ている。 建築学科および建築学専攻の学生が有志で運営する作品展において、学生が授業外の時間で製作に取り組むポスター案の指導を行った。
4. 学内設計作品の展示	2017年6月～現在	武庫川女子大学 建築・都市デザインスタジオや建築学専攻の建築設計実務における設計作品について、パネルの制作や動画の上映（ナレーション編集担当）を行った。また、海外研修Ⅰにおける学生や教員が現地で描いたスケッチや現地の実測調査による歴史的建築物の寸法デザインに関する成果パネルの制作・展示計画を行った。これらは、学内のイベント（ライトアップやオープンキャンパスなど）における学内活動の紹介コーナーとしている。 また、2021年に竣工した景観建築スタジオ東館および西館の展示スペースにも学生の設計作品の展示を行い、イベント時などで景観建築学科の紹介を行っている。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 高校への出張講義	2024年3月5日	2023年度の私立大阪高校1年生対象の分野別ガイダンスにて、建築学に関する講義とワークを行った。
2. 日本建築家協会優秀建築選2023	2023年9月	「景観建築スタジオ西館」が「日本建築家協会優秀建築選2023」において「優秀建築選2023（100選）」に選定された。
3. くすのき建築文化賞コンクール 特別賞	2023年4月	「景観建築スタジオ西館」にて兵庫県建築士事務所協会第15回くすのき建築文化賞コンクール特別賞を受賞
4. 日事連建築賞（奨励賞・一般建築部門）	2022年10月	「景観建築スタジオ東館」に対して、令和4年度日事連建築賞を受賞（設計補助）
5. 武庫川女子大学 建築学部・建築学研究科 作品集 2021	2021年12月～2022年5月	作品集の紙面レイアウト案の作成および原稿作成の統括を担当。
6. 景観建築学科パンフレット	2021年3月～現在	2021年度の景観建築学科パンフレットの教員紹介ページおよび表現基礎演習の作品ページ制作を担当。
7. 武庫川女子大学 建築学部・建築学研究科 作品集 2020	2020年12月～2021年5月	作品集の紙面レイアウト案の作成および原稿作成の統括を担当。
8. 武庫川女子大学 建築学科・建築学専攻 作品集 2019	2019年12月～2020年5月	作品集の紙面レイアウト案の作成および原稿作成の統括補佐を担当した。
9. 阪神鳴尾駅プロジェクトに関する成果報告	2018年4月6日～2018年6月1日	建築設計実務で取り組んだ阪神鳴尾駅プロジェクトを通し、本学における設計の取り組み方や教育方針、自身の研究活動に関する取材を受け、新聞に掲載された。また、掲載された記事をHPで報告した。 ・産経新聞(朝刊)「大学発 社会をつなぐ」 2018年4月6日および4月13日掲載分の取材、 2018年6月1日掲載を含むHP更新を担当 ・朝日新聞(朝刊)「まなびバ! 大学編」 2018年4月24日掲載、取材の一部を担当
10. 武庫川女子大学 建築学科・建築学専攻 主催 / 東京センター 共催 講演会シリーズ「シルクロードと文化の建築」	2016年6月4日～現在	本講演会シリーズでは、シルクロードを通して行われてきた、わが国と地中海を結ぶ長い歴史の異文化交流やその文化遺産保護活動における重要性や問題を考える。 (講演会の配布資料準備、会場運営、講演会参加者の対応などを担当)
11. 武庫川女子大学 建築学科・建築学専攻 主催 / 東	2016年5月14日～現在	本講演会シリーズでは、近代建築を通し、豊かな都市

職務上の実績に関する事項				
事項	年月日	概要		
4 その他				
京センター 共催 講演会シリーズ「わが国の近代建築の保存と再生」				環境の在り方について考える。 (講演会の配布資料準備、会場運営、講演会参加者の対応などを担当)
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. ファサードの立体的な構成に着目した伝統的町並みの特徴 - ファサードの構成要素がもつ属性の共起関係ならびに 遮蔽縁およびその背後から現れる構成要素に着目して -	単	2019年3月	武庫川女子大学大学院 博士学位論文	伝統的町並みの空間的魅力的の解明を目的とし、京都の祇園新橋地区と産寧坂地区を対象に、ファサードの3次元モデルを用いて立体的構成の特徴を分析した。帰納論理プログラミング(ILP)を用い、ファサードの構成要素の4つの属性(タイプ、立面上の配置、色彩、形態)に着目し、それらの共起関係を含む規則を抽出した。さらに、3次元の町並みの歩行時の視覚的体験に着目し、遮蔽縁およびその背後から現れる構成要素について定量的分析を行い、各地区の特徴的な視点場とその空間構成について明らかにした。
2. 大阪市空堀地区における路地の街並み景観の分析 - 路地の表出要素の分布調査と帰納論理プログラミングを用いた空間構成の規則の抽出 -	単	2016年3月	武庫川女子大学大学院 修士論文	大阪市空堀地区の路地の街並み景観の空間的特徴を明らかにすることを目的とする。地区内にある82の路地を対象に現地調査を行い、各路地に面する長屋の植栽やしつらえ等の表出要素の分布を調査した。その中でも多くの表出要素が分布する路地の一つを取り上げ、路地に面する各長屋のファサードの3次元モデルを作成した。帰納論理プログラミング(Progol)を用い、各長屋の特徴を、それに隣接する両隣の長屋との関係により抽出し、路地の街並み景観の空間的特徴を明らかにした。
3 学術論文				
1. Quantifying The Changing Scenery of The Facade Focusing on Occluding Edges and Appearing Elements: A Case Study In Sanneizaka District In Kyoto (査読付)	共	2021年12月	Archi-Cultural Interactions through the Silk Road 5th International Conference	Yuna Tanaka, Shigeyuki Okazaki, Noritoshi Sugiura This study was analyzed the changes in appearance of the facade along with walking and the characteristics of its spatial composition in the Sanneizaka area in Kyoto. Using a 3D-model of the facade, the occluding-edges and the appearing elements from the edges were extracted in each viewpoint in ascending and descending views of the slope, and analyzed their quantitative change. The characteristics of the spatial compositions of the scene where the number of appearing elements increases remarkably and the configuration patterns of the appearing elements and shielding edges are clarified. (論文全般を担当)
2. 伝統的町並み景観における遮蔽縁と出現要素に着目した空間構成の特徴 - 一京都市祇園新橋地区 新橋通りの歩行時を対象とした定量的分析 - (査読付)	共	2019年5月	日本建築学会計画系論文集, 第84巻, 第759号, pp. 1155-1165	田中佑奈, 岡崎甚幸, 杉浦徳利 京都の祇園新橋地区を対象に、歩行に伴う町並みの見え方の変化およびその空間構成の特徴を明らかにすることを目的とする。ファサードの3次元モデルを用い、各視点の遮蔽縁およびその背後から現れる要素を抽出した。その結果、①出現要素の推移の特徴、②視点から遮蔽縁および出現要素までの距離、遮蔽縁の組み合わせ、遮蔽要素と出現要素の種類、による町並みの空間構成の特徴、③要素の出現パターンによる遮蔽縁と出現要素の配置の特徴、を明らかにした。(論文全般を担当、引用実績1件)
3. The Analysis of the Characteristic of Composition Elements for the Traditional Townscape by Inductive Logic Programming: Focusing on Bamboo Blinds in the Gionshinbashi	共	2018年3月	Institute of Turkish Culture Studies, Intercultural Understanding, Vol.7, pp.31-40	Yuna Tanaka and Shigeyuki Okazaki This study was analyzed the characteristics of each facade of all buildings on both sides considering having bamboo blinds or not along the Shinbashi-dori Street in the Gionshinbashi district in Kyoto. Composition elements are described in 4 attributes; types, position on the facade, color, and form, which is expressed in first order logic. The rules of the elements were extracted in whole facade on each side by ILP. The results showed the characteristics of form and color in each facade on both sides. (論文全般を担当)

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
District (査読付) 4. 帰納論理プログラミングを用いた伝統的町並み景観における構成要素の分析 ー京都の重要伝統的建築物群保存地区 産寧坂および祇園新橋を対象にしてー(査読付) 5. A STUDY OF THE CHARACTERISTICS OF TRADITIONAL ROW HOUSES' FACADE IN THE ALLEY IN KARAHORI, OSAKA, JAPAN APPLYING INDUCTIVE LOGIC PROGRAMMING (査読付)	共	2016年12月 2016年7月	日本建築学会住宅系研究報告会論文集11, pp.65-74 Archi-Cultural Interactions through the Silk Road 4th International Conference, Selected Papers, pages 171-178	田中佑奈, 岡崎基幸 京都の祇園新橋地区および産寧坂地区を対象に、各建物のファサードの構成要素に着目し、町並み景観の特徴を分析した。ファサードの構成要素の4属性(タイプ、立面上の配置、色彩、形態)に着目し、帰納論理プログラミングにより分類規則を抽出した。祇園新橋地区では、格子や簾などの伝統的な構成要素に関する規則、産寧坂地区では、店舗のしつらえや階段、大きささまざまな形態に関する規則が抽出された。両地区のファサードの構成要素の立体的特徴を捉えることができた。(論文全般を担当) Yuna Tanaka, Shigeyuki Okazaki, Noritoshi Sugiura This study was analyzed the characteristics of row house facades in the alley in Karahori District area, using Inductive Logic Programming (ILP). Each element of facade was assembled in 3D-models and they were described in two types of attributes; types of elements and types of relations. By applying ILP, the classification rules for each house were found by comparing to the adjacent houses. The following findings were made from the rules which were defined as "individual rules": the two groups divided by a branch alley have different types of regularity in relation on the vertical plane; and traditional row houses, which are located close to Oharai-suji Street, are the most characteristic part of the alley. (論文全般を担当)
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. Gateway ー六甲山と「生田川」をつなぐ「新 神戸駅」の再生計画ー 2. coco place ー海辺で見つけたわたしの居場所ー 3. 生田川の橋上を視点場とする都市景観の特徴に関する研究 ー六甲山のスカイラインをはじめとする景観構成要素の分析を通してー 4. 双葉町及び浪江町の住民は復興に向けて何を望んでいるのかー現地ヒアリングによる生活ニーズ調査ー 5. こどもにとって居心地の良い場所に関する研究 ー女子中学生を対象としたアンケート調査を通じてー 6. 直線通路の側面形状が距離感覚に及ぼす影響	共	2024年8月 2024年8月 2024年8月 2024年8月 2024年8月	日本建築学会大会 建築デザイン発表梗概集 (関東), pp.304-305 日本建築学会大会 建築デザイン発表梗概集 (関東), pp.174-175 日本建築学会大会 学術講演梗概集 (関東), pp.1097-1098 日本建築学会大会 学術講演梗概集 (関東), pp.825-826 日本建築学会大会 学術講演梗概集 (関東), pp.701-702 日本建築学会大会 学術講演梗概集 (関東), pp.541-542	竹内歩, 杉浦徳利, 石田潤一郎, 田中佑奈 ゼミにおける研究指導 鈴木彩生, 杉浦徳利, 石田潤一郎, 田中佑奈 ゼミにおける研究指導 竹内歩, 杉浦徳利, 石田潤一郎, 田中佑奈 ゼミにおける研究指導 山岸紀華, 杉浦徳利, 石田潤一郎, 田中佑奈 ゼミにおける研究指導 鈴木彩生, 杉浦徳利, 石田潤一郎, 田中佑奈 ゼミにおける研究指導 本田光花莉, 杉浦徳利, 石田潤一郎, 田中佑奈 ゼミにおける研究指導

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
7. 景観建築スタジオ東館 武庫川女子大学 景観建築学科新校舎 その1	共	2022年9月	日本建築学会大会 建築デザイン発表 梗概集（北海道），pp.16-17	山口彩，岡崎甚幸，鳥巢茂樹，猪股圭佑，森本順子，船戸理磨子，田中佑奈 景観建築学科・専攻の新校舎の一つとして、2020年4月に新設。東館の外観デザインおよび装飾タイルについての報告。歴史的建造物である甲子園会館と隣接して建つ校舎として、歴史的建造物がもつその時代の文化を象徴する型を継承しながら、新たな空間を提案することを目指した。装飾タイル、照明器具、家具、屋根の露盤や隅先の瓦にある大小の打出の小槌などを引用し細部のデザインを行った。（設計の共同担当）
8. 景観建築スタジオ西館 武庫川女子大学 景観建築学科新校舎 その3	共	2022年9月	日本建築学会大会 建築デザイン発表 梗概集（北海道），pp.20-21	田中佑奈，岡崎甚幸，鳥巢茂樹，猪股圭佑，森本順子，山口彩，船戸理磨子 景観建築学科・専攻の新校舎の一つとして、2021年3月に新設。松や楠のある中庭を挟んで対面する建築スタジオの、プレキャストコンクリートによるデザインを踏襲しつつ、新たなデザインの可能性を追求した。プレキャストの床版や柱の座屈止め、吹抜階段の段板裏面に曲面を用いたデザインとすることで、西館の周囲に生い茂る樹木の有機的な姿と調和し、この校舎で学ぶ学生の女性らしさのイメージを、美しい曲面で表現している。（設計の共同担当、発表および原稿作成を担当）
9. 景観建築スタジオ東館 武庫川女子大学 景観建築学科新校舎 その2	共	2022年9月	日本建築学会大会 建築デザイン発表 梗概集（北海道），pp.18-19	船戸理磨子，岡崎甚幸，鳥巢茂樹，猪股圭佑，森本順子，山口彩，田中佑奈 景観建築スタジオ東館の内部空間や庭園、室内装飾や家具についての報告。武庫川の支流で廃川となった旧枝川の南側堤防の上に東館が建ち、南側堤防には松や楠木の繁る小高い丘が残る。この丘の高木を保存し、建物の前にテラス、その向こうに碎石を敷き、海の向こうに島並が見える風景を造った。さらに石橋や車石を据え、滝石組みを設けている。また、甲子園会館に多数保存されるホテル時代の照明器具のグローブの再利用や3Dプリンターによる復元を行った。（設計の共同担当）
10. 伝統的町並みにおける遮蔽要素と出現要素の種類に着目した空間構成の特徴 — 産寧坂伝建地区の歩行時を対象とした定量的分析—	共	2019年9月	日本建築学会大会 学術講演梗概集（北陸）都市計画部門，pp.1069-1070	田中佑奈，岡崎甚幸，杉浦徳利 京都の産寧坂地区を対象に、歩行に伴う町並みの見え方に変化をもたらす要素として、遮蔽要素と出現要素の種類に着目し、上り方向および下り方向の各視点における出現要素の種類別の推移と、通り全体における遮蔽要素の種類と出現要素の種類の共起関係を分析した。遮蔽要素と出現要素の共起関係の強い組み合わせおよび出現頻度の高い要素の種類を抽出し、それらがみられる視点場における空間構成の特徴を明らかにした。（論文全般を担当）
11. QUANTITATIVE ANALYSIS OF CHANGES OF THE APPEARANCE OF THE FACADE FOCUSING ON OCCLUDING EDGES AND APPEARING ELEMENTS FROM THE EDGE: TARGETING THE WALKING CASE OF SANNEIZAKA DISTRICT IN KYOTO (査読付)	共	2019年6月	Archi-Cultural Interactions through the Silk Road 5th International Conference	Yuna Tanaka, Shigeyuki Okazaki, Noritoshi Sugiura In this study, we extracted occluding-edges and appearing elements from the edges of each viewpoint in ascending and descending views of Sanneisaka in Kyoto using a 3D-model, and analyzed their quantitative change with viewpoint movement. The most horizontal-edges are in both of ascending and descending directions. However, many elements appear from behind the vertical-edges, which greatly affects the changes in the appearance of the slope. And the difference in the number of elements appearing from behind the vertical-edges in the ascending and descending direction is related to the presence or absence of space to display many items behind the elements which form the vertical-edges located parallel to the slope. (論文全般を担当)
12. 帰納論理プログラミングを用いた伝統的町並み景観における構成要素の分析 — 京都の祇園新橋地区における簾の有無に着目して—	共	2018年9月	日本建築学会大会 学術講演梗概集（東北）都市計画部門，pp.501-502	田中佑奈，岡崎甚幸 京都の祇園新橋地区を対象に、新橋通りに面する南北両側の町並みのファサードの特徴を、簾の有無に着目して分析した。ファサードの構成要素の4つの属性として、タイプ、立面上的の配置、色彩、形態に着目し、帰納論理プログラミングを用いて、南北両側の固有の分類規則を、簾の有無それぞれの場合において抽出した。その結果、南北両側のファサードの形態や色彩に関する特徴を示すことができた。（論文全般を担当）

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
13. 帰納論理プログラミングを用いた伝統的町並み景観における構成要素の分析ー京都の重要伝統的建築物群保存地区 産寧坂および祇園新橋を対象にしてー	共	2017年8月	日本建築学会大会(中国)学術講演梗概集都市計画部門：景観評価 pp. 743-744	田中佑奈, 岡崎甚幸 京都の祇園新橋地区および産寧坂地区を対象に、ファサードの構成要素に着目し、町並み景観の特徴を分析した。ファサードの構成要素の属性として、タイプ、立面上の配置、色彩、形態、に着目し、帰納論理プログラミングを用い、属性の共起関係における規則を抽出した。その結果、祇園新橋地区では立体的な格子や2階部分の簾に関する規則、産寧坂地区では店舗のしつらえや階段、多様な形態に関する規則、がそれぞれ抽出され、構成要素の立体的特徴を把握することができた。(論文全般を担当)
14. 帰納論理プログラミングを用いた伝統的町並み景観における構成要素の分析ー京都の重要伝統的建築物群保存地区 産寧坂および祇園新橋を対象にしてー(査読付)	共	2016年12月	日本建築学会住宅系研究報告会論文集11, pp.65-74	田中佑奈, 岡崎甚幸 伝建地区に指定されている京都の祇園新橋地区及び産寧坂地区を対象に、各建物のファサードを構成する屋根や開口部、植栽等の構成要素に着目し、町並み景観の特徴を把握することを目的とする。そこで、各構成要素それぞれに、タイプ、立面上の配置、色彩、形態の4つの属性情報について一階述語論理に基づく記述を作成し、機械学習の枠組みの一つである帰納論理プログラミング(ILP)により抽出された分類規則から、両地区の町並み景観全体における「構成要素」の特徴について、以下のことを発見した。祇園新橋地区では、立体的な格子や、2階部分の簾、壁面の色彩に関する伝統的な構成要素の特徴が挙げられた。それに対し、産寧坂地区では、商店のしつらえや階段等の建築的部以外様々な構成要素を含め、多様な色彩かつ大小様々な形態の特徴が挙げられた。(論文全般を担当)
15. 帰納論理プログラミングを用いた路地の街並みにおける長屋のファサードの空間構成の特徴ー大阪市空堀地区を対象として-	共	2016年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集(九州)都市計画, pp. 871-872	田中佑奈, 岡崎甚幸, 杉浦徳利 大阪市空堀地区を対象に、路地の街並みの空間構成の特徴を、帰納論理プログラミングを用いて分析した。路地に面する各建物のファサードの3次元モデルを作成し、構成要素の種類および構成要素間の幾何学的関係に着目し、分類規則を抽出した結果、枝分かれの路地を境に立面的関係の規則性が変化していること、お祓い筋の近くに位置する長屋は複数の個性的規則が抽出され、特に個性の強い特徴があること、を明らかにした。(論文全般を担当)
16. A STUDY OF THE CHARACTERISTICS OF TRADITIONAL ROW HOUSES' FACADE IN THE ALLEY IN KARAHORI, OSAKA, JAPAN APPLYING INDUCTIVE LOGIC PROGRAMMING (査読付)	共	2016年7月	Archi-Cultural Interactions through the Silk Road 4th International Conference, Proceedings, pp. 99-102	Yuna Tanaka, Shigeyuki Okazaki, Noritoshi Sugiura In this study, we found the characteristics of peculiar rules of the building and expression elements of traditional row houses in the alley in Karahori, Osaka using ILP. We made the following findings: (1) most traditional row houses have many individual rules; (2) traditional row houses (a1-a4) have rules that refer to 3-D composition in relation to the depth direction; (3) the two groups divided by a branch alley have different types of regularity in relation on the vertical plane; and (4) traditional row houses (a2-a4 and b2), which are located close to Oharai-suji Street, are the most characteristic of the alley. (論文全般を担当)
17. コミュニティ衰退における社会的変遷及び生活環境的要因ー堺市東浅香山地域の実態調査-	共	2014年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿)都市計画, pp. 431-432	田中佑奈, 岡崎甚幸, 鈴木利友, 天鳥秀秋 堺市東浅香山地域のコミュニティ衰退を社会変遷及び生活環境的要因から明らかにすることを目的とする。実態調査を行った結果、プライバシー意識を軽減し近隣と関わる場である路地の減少、駐車場の所有や増改築による居住空間の閉鎖化、子どもの増加に伴う私室増加による家族間の交流の減少、ライフラインや趣味を共有する場の減少、若い世代の減少や女性の社会進出に伴う地域内の関わり減少、が挙げられた。また、これらは昭和35年以降の社会的変遷と関係していることを明らかにした。(論文全般を担当)
3. 総説				
4. 芸術(建築模型等含む)・スポーツ分野の業績				
1. 上甲子園キャンパス2号線沿い看板(新設)および庭園整備	共	2024年3月竣工	武庫川女子大学 建築・都市デザインスタジオ(一級建築士事務所)	岡崎甚幸、鳥巢茂樹、上町あずさ、田中佑奈、池澤萌子 上甲子園キャンパス2号線沿い看板(新設)における計画案および庭園整備計画案作成を担当した。(基本設計図、CGパース)
2. 景観建築スタジオ西	共	2021年3月竣工	武庫川女子大学	岡崎甚幸、鳥巢茂樹、猪股圭佑、森本順子、山口彩、田中佑奈、船

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
3. 景観建築スタジオ東館	共	2020年11月竣工	武庫川女子大学 建築・都市デザインスタジオ（一級建築士事務所）	戸理磨子 2020年度に新設された景観建築学科の新校舎の設計・監理。松や楠の大木のある中庭を挟んで建築スタジオと対面し、プレキャストコンクリートの新たな可能性を追求した。両建物の列柱が、軽やかなリズムを生み出す。景観建築学科2年生以上のスタジオのほか、講評室やラウンジを備える。（CGパース制作を担当）
4. 甲子園ホテルの復刻版カステラの包装紙デザイン	共	2015年10月～11月	武庫川大学生活環境学部 建築学科	戸理磨子 2020年度に新設された景観建築学科の新校舎の設計・監理。大きな屋根と庇のある外観で、景観建築学科1年生のスタジオを設ける。緑釉瓦や石、装飾タイルなどの伝統的材料を現代建築に取り込んだ優美なデザインで、名建築「甲子園会館」のデザインを継承する。（CGパース制作を担当）
5. Hisham's palaceの浴場の鞆堂設計	共	2015年6月	JICA（国際協力機構），東京文化財研究所	岡崎甚幸，山口彩，川崎祐華，中村優花，田中佑奈，木島未実子，中野沙耶 JICA（国際協力機構）より委託されたパレスチナにあるヒシャム宮殿（パレスチナ・ジェリコ）の浴場に残るモザイクタイル床を保護するための鞆堂を設計。東京文化財研究所との共同企画。岡崎教授の下で建築学科教員と協働で行った。作成した模型・イメージパース・図面は、東京で行われた専門家会議で岡崎教授により発表された。（設計提案4案のうち、第3案一膜構造を用いた屋根一における模型製作およびCG作成を共同で担当）
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 大学院意見交換会における研究内容のポスターセッションおよび研究活動に関する討論	単	2017年3月11日	武庫川女子大学 大学院意見交換会	本学大学院生が集い、ポスターセッションを通じた研究内容の報告、他分野を専攻する学生と研究活動における問題点や改善点などに関する討論を行った。
6. 研究費の取得状況				
1. 伝統的町並み景観におけるファサードの構成要素に基づく空間的特徴	単	2018年	平成30年度 科学研究費補助金学内奨励金	伝統的町並み景観におけるファサードの空間的特徴の解明を目的とする。各建物のファサードを構成する屋根、庇、開口部、さらにファサードを彩る様々なしつらえ等を、それぞれ町並み景観の構成要素として着目する。それらを3次元化した町並み景観のファサードモデルのデータベースを構築し、帰納論理プログラミング(ILP)を用いた分析により、町並み景観の空間的特徴を把握する。
学会及び社会における活動等				
年月日		事項		
1. 2020年12月～現在		大阪府大規模小売店舗立地審議会 委員		
2. 2020年4月～現在		日本造園学会		
3. 2016年4月～2019年3月		日本都市計画学会		
4. 2014年3月～現在		日本建築学会		